

ハスヌマ通信 第13号

発行人 板倉直壽 (なおひさ) TEL/FAX 0548-29-0961

牧之原市を明るく強くする、行政への提言。住所 〒 421-0411 静岡県牧之原市坂口 2142 番地 1

2025.6.15 発行 「ハスヌマ」は家の屋号です。印刷所 アスクル (株) 東京都江東区豊洲 3-2-3

○御意見をお待ちしています。PC ginzanokaze@nifty.com 携帯 080-3420-8075 (ショートメール)

○私は、戦後のいわゆる自虐教育の中で育ちました。失われた日本人の誇りを取り戻したいと思います。



1、小中学校統合の白紙撤回を求めます。 第7回 最終回

～大規模な義務教育学校を造れば、①教育環境は悪くなり、②市の財政負担は重くなり、③小学校区共同体の衰退に拍車がかかります。～

I. 小中統合計画を白紙撤回した後はどうするか。

(1) 10校は現在の位置(小学校区)に残して長寿命化改修か改築をする。

10校は現在の場所に残しますが、①校舎はどれもすでに築50年前後が経っているので、新しい考えを取り入れた長寿命化改修か改築(建て直し)が必要になります。長寿命化改修は改築より安く、改築と同等の品質になると言われますが、その際、生徒の減少に合わせて新改築と同程度の広さにするのが順当だと思われま。面積を減らさずに改修すれば空き教室を何か他の用途に用いることができますが高つくります。②体育館は長寿命化改修か改築をします。③プールは10校を統合する形で市営プールを1つにまとめる方法があると思います。④教育費(施設費+教職員人件費)は、10校も2校も同程度になると思われまますが、以上①②③④について市は試算を示していません。何故市長は試算なしに小中統合という重大な決定をすることができたのでしょうか。

なお、細江、川崎、相良、地頭方の4校は海に近く、大津波が心配だから高台に移転しようという案もありますが、階数を増やした方がよいと思います。子供たちは夜は自宅にいるので高台に移転しても絶対に安全というわけではありませんし、地域住民の避難所として必要です。

(2) 10校の設備・機器

市は、義務教育学校ができれば新校舎は新しい考えを取り入れた設計で建て、最新設備や機器を導入して素晴らしい教育ができると言いますが、10校の場合も同じことができます。義務教育学校に負けないような設備機器を設置します。

(3) 白紙撤回をすると何か問題が生ずるでしょうか。

計画の進捗状況にもよりますが、できるだけ損害を出さない工夫が必要になります。一般論として、学校施設については、新しい学校用地の測量、選定、購入、整地、校舎等の設計・建設、と言う具合に進むと思われまますが、計画を白紙撤回した場合、これまでのことが無駄になったり、損害賠償問題が生ずる懸念があります。しかし、①購入した土地があれば売買契約を取り消すか、②または他の用途に転用すればよいと思います。③国から補助金が出ていれば、返金すればいいでしょう。④校舎等の設計が終わっているなら、相手方に損害賠償をします。ただ、いずれ10校の校舎の長寿命化修又は改築をしますから、設計事務所、建設業者との話し合いで、そういった損害を埋め合わせることは可能かもしれません。その場合、会社側はこれまでの経験や知識の蓄積を生かすこともできるでしょう。また、⑤義務教育学校の運営、授業の仕方など、これまで時間をかけて検討し、積み上げた知識や経験は、教職員、市の職員、市民の中に蓄積され、今後には生かされるので、無駄にはならないと思われま。

II. 改めて小中統合について考えること。

東京の様な大都市では、時代が求める新しい公共施設が必要になっても土地が足りません。そこで、**土地を空けるために小中統合が利用されます。教育目的ではありません。**

一方、牧之原市には土地は十分あり、**現在の学校用地を明け渡す必要はありません。**それなのに、大都会の真似をして、田んぼの中に巨大な学校を造って、そこに広域から**幼い子供達**を集めて閉じ込めるのは狂気の沙汰としか思えません。通学方法も複雑になり、人が増えて組織が大きくなれば、複雑化して皆忙しくなり、ストレスが高まります。教師の目が行き届かなくなり、子供一人一人の存在感が小さくなって疎外感が高まります。市はより良い教育のためだと言い張りますが、教育環境が悪くなることは間違いありません。

この牧之原市の、田んぼ、畑、山林で囲まれ、のびのびと暮らすことができる環境が、いかに精神衛生上恵まれているかを考えて下さい。これは大きな財産です。都会のマンションなどで暮らす子供達の遊び場はたとえば階段です。高校生がマンションの階段に集まっている姿をよく見かけましたが、その子供たちは階段で遊ぶしかなかったのかもしれない。ある地方都市の広い田んぼの中に 41 階建のマンションが建っている様子を動画で見ましたが、牧之原市の義務教育学校構想にはこれに近いものを感じます。**田んぼの中の巨大で洒落たピカピカの校舎**は物珍しく一見魅力的かもしれませんが、それは一時的なことでしょう。そうまでしても 20 数年後には**単学級**が生ずると市は予想するのです。現在の 8 つの小学校区を犠牲にしても、いずれ**単学級**ができるほど人が減るなら、**10 校の校舎を新しくし、50 年後の未来に目を向けて、**学校や地域や牧之原市を明るく強くしていきませんか。

III. 小中統合の可否を市民に聞かなかったのは、市の不誠実の極み。

市は、2 年前の文書で「市民参加機会を 118 回行い、参加人数は延べ 4300 人以上、意見数は 5000 件以上いただき、計画を練り上げてきた」と自画自賛しますが、市が市民に尋ねたのは、移転先や新しい校舎のデザイン、教育方針などだけでした。**市民は、最も大事な、小中統合の賛否について意思表示する機会を奪われたのです。**市民の皆さん、これでいいのですか？

学校統合問題は単なる①教育問題ではなく、②財政面や③共同体の将来も視野に入れて考えなければいけないことだということは**財務省や文科省も認めているのです。**ところが市は、市民の反対を恐れて統合の賛否を市民に問うことをしませんでした。そして、教育環境を良くするためと屁理屈を並べて言い張り、補助金欲しさか、総務省によい顔をしたのか知りませんが、不誠実の極みです。また、繰り返し述べたように、財務に関して試算を出さず、**どうして市長はこの大きな事業を決断できたのか不思議でなりません。**

牧之原市のような小都市は市民の支持がなければ運営は難しいと思われませんが、その為には市が市民に対して【正直】で【誠実】でなければなりません。 完。

～小中学校統合の白紙撤回を求めます～

■後書き■ 最後までお読み下さり有り難うございます。今回は榛原地区に加え、相良地区にも配布しました。

Ⅲ. 小中統合の可否を市民に聞かなかったのは、市の不誠実の極み。

最後に、たとえ話をします。『親が亡くなり、1億100万円の遺産相続が発生したので、兄弟姉妹5人で等分するつもりで手続を長男に任せたと、長男が勝手に1億円を相続してしまい、他の兄弟姉妹には100万円しか残らなかった』、こんな話があったとします。私はこの話を市の行動から想像しました。『1億円を長男が独り占めした』という意味は、小中統合という最も大事な決定を、教育委員会・市長部局（「教育のあり方検討委員会の10名」・「教育のあり方検討意見交換会の135名」は飾り）だけで決めてしまったことを意味します（第2回で述べました）。そして、『他の兄弟姉妹には100万円しか残らなかった』というのは、それに比べたら小さな、校舎、教育内容についてしか市民は発言できなかったことを意味します。

市にすれば、統合さえ決めてしまえば後のことはどうにでもなります。市は、「市民参加機会を118回行い、参加人数は延べ4300人以上、意見数は5000件以上いただき、計画を練り上げてきた」と自画自賛しますが、大多数の市民は、最も大事な、小中統合の賛否について意思表示する機会を奪われたのです。市民の皆さん、これでいいのですか？

学校統合問題は単なる教育問題ではなく、財政面や共同体の将来も視野に入れて考えなければいけないことです（これは財務省や文科省もそう述べています）。しかし市は、市民に反対されることを恐れて市民に問うことをしませんでした。牧之原市のように小都市は市民の支持がなければ運営は難しいと思われませんが、その為には市が市民に対して【正直】で【誠実】であるべきだと思います。 完。